

# 2019 年度事業報告

(自 2019 年 2 月 1 日～至 2020 年 1 月 31 日)

公益社団法人 日本薬学会

## I はじめに

日本薬学会は薬学における中核的学術団体として、医薬品の創製、製造、有効性と安全性、供給、適正使用、生体での作用機序に関する情報発信・交換・支援をはじめ、広く医療機器、再生医療、予防医学や生命科学に関する学術や産業の発展に貢献してきました。また薬剤師教育・薬学に関わる人材育成に関して文部科学省、厚生労働省、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、医薬品関連産業界や健康・医療関連産業界等との連携を基に、責務を果たしてきたと考えています。2019 年度に取り組んだ主な事項について以下に示します。

- ① 日本薬学会の最大の学術活動となる第 139 年会（千葉）が、2019 年 3 月 20 日～23 日に「智の継承、そして発展」をテーマに、東京理科大学の牧野公子組織委員長の下で開催され、活発な発表と討論が行われました。本年会には韓国薬学会（PSK）の代表者をお招きし、ご講演を賜るとともに交流を深めました。
- ② 学会の支部・部会は、昨年度、支部長会議と部会長会議の交流を通じて互いの位置づけを共有した上で、個々の計画に基づき活発な学術活動を展開しました。
- ③ 学術誌の更なる充実発展を目指し、Chemical and Pharmaceutical Bulletin、Biological and Pharmaceutical Bulletin について、毎月 Newsletter を配信すると共にファルマシアにグラフィカルアブストラクトを毎月掲載するように致しました。生物系オープンアクセスジャーナルとして発刊した BPB Reports にも順調に論文が投稿され、今後の発展が期待されます。学会誌ファルマシアは本学会会員を含め、多くの薬学関係者への有効な情報提供を継続しています。
- ④ 学術情報発信の企画として新刊書籍『THE 創薬 — 少資源国家 “にっぽん” の生きる道 —』の刊行を企画しました。本書では各研究領域を代表する著名な先生方にご執筆いただく予定です。
- ⑤ 学会主催の創薬セミナー、全国学生ワークショップ、若手教育者のためのアドバンストワークショップ、日本学術会議との共催シンポジウム等を本年度も開催し、多くの成果が得られたと考えています。
- ⑥ 今年度も長井記念薬学研究奨励支援事業により博士課程大学院学生の勉学支援が行われました。

これらのほか、ドイツ薬学会（DPhG）へのシンポジスト派遣、FIP（国際薬学連合）、AFMC（アジア医薬化学連合）、ドバイ国際医薬品会議（DUPHAT）との連携など積極的な国際交流活動を展開しました。

## II 事業実施状況

### 1 代議員総会の開催

日 時：2019年3月20日（水）

場 所：幕張メッセ国際会議場 コンベンションホール A

### 2 学術研究・教育活動の推進

#### 1) 学術誌の発行

学術誌3誌の特性を最大限に活かした原著論文・総説の掲載により、薬学ならびに関連分野における科学の発展に寄与してまいりました。

本学会の学術誌への投稿意欲を高めるために、継続して査読期間の短縮、出版までの作業の効率化を推進してまいりました。また、英文誌では海外からの投稿を増やすため、投稿規定を国際標準の形式へ刷新いたしました。

発行日に合わせ、英文誌では Graphical Abstracts を掲載した HTML 形式のニュースレターの E-mail 配信を開始いたしました。

YAKUGAKU ZASSHI では臨床薬学領域研究の多様化に対応するため、臨床薬学領域の英文投稿およびケースレポートを受け付けました。

Chemical and Pharmaceutical Bulletin (CPB) ではテーマを絞った、興味深い内容のカレントトピックスを掲載しました。

Biological and Pharmaceutical Bulletin (BPB) では誌面の充実を目的とし、国内の著名な研究者に総説の執筆を依頼いたしました。

2019年度の学術誌の刊行は、以下のとおりです。

#### ① YAKUGAKU ZASSHI 第139巻

掲載論文数：198編／昨年比8編増

（早期公開8編／昨年比1編減、英文投稿12編／昨年比4編減）

発行部数：650部（月刊）

#### ② Chemical and Pharmaceutical Bulletin 第67巻

掲載論文数：183編／昨年比17編増

（早期公開34編／昨年比3編増）

発行部数：620部（月刊）

#### ③ Biological and Pharmaceutical Bulletin 第42巻

掲載論文数：292編／昨年比27編増

（早期公開73編／昨年比16編増）

発行部数：620部（月刊）

#### 2) オンラインジャーナルの発行

生物系オープンアクセスジャーナルの BPB Reports では、投稿者の幅広いニーズに対応するため、学術誌3誌には無い、Report という論文カテゴリーを設け、掲載を行ってまいりました。

2019年度の発行は、以下のとおりです。

#### ① BPB Reports 第2巻

掲載論文数：22編

#### 3) J-STAGE との連携

高度情報化社会の趨勢(すうせい)と、本学会の公益性を視野に入れ、学術誌3誌を登

行日と同日に J-STAGE（科学技術振興機構）にて全文公開しております。

#### 4) 学術研究集会の開催および部会・支部活動の支援

##### (1) 年会の開催

年会は、領域の異なる研究者が一堂に会して、薬学の進歩を横断的に知ることのできる全国規模の大会です。特にシンポジウムの企画・募集にあたっては、多様な領域を包含できるものとなるよう留意してまいりました。第 139 年会および第 140 年会について、組織委員会を中心に次のとおり企画ならびに開催いたしました。

###### ①第 139 年会（千葉）

日 時： 2019 年 3 月 20 日（水）～23 日（土）  
場 所： 幕張メッセ、ホテルニューオータニ幕張  
テーマ： 「智の継承、そして発展」  
組織委員長： 牧野公子（東京理科大学）

###### ②第 140 年会（京都）

日 時： 2020 年 3 月 25 日（水）～28 日（土）  
場 所： 国立京都国際会館他  
テーマ： 「「創」と「療」の伝承と革新、そして新たな時代の幕開け」  
組織委員長： 中山 和久（京都大学大学院）

##### (2) 部会の活動

部会は、薬学研究の高度化と若手研究者や薬学生の育成を共通の主要課題とし、シンポジウム、フォーラム、研究会等を開催するとともに、創薬研究者の育成等、各部会の環境、状況にあわせて特色ある活動を進めてまいりました。また、部会間で協力し、他機関との連携を図りました。

本年度の部会活動の詳細は（別紙 1 P11～）のとおりです。

##### (3) 支部の活動

支部は、地域ごとに会員が日本薬学会を身近な存在として活用できる場です。学生会員の積極的な参加を促す学術集会、地域薬剤師会との交流、薬学講習会での最新情報の入手、支部表彰事業ならびに高校生への薬学ガイダンス等地域の特性を生かした事業展開を行うよう努力してまいりました。一般社会へ薬学の正しい理解を広げるとともに、若い世代へ積極的に働きかけを行い、会員増強運動を進めました。

本年度の支部活動の詳細は（別紙 2 P26～）のとおりです。

##### (4) 創薬セミナーの開催

本セミナーは、創薬に係わる最先端の話題と情報を提供し、今後の創薬に関して有益な議論をする場として、毎年開催しております。第 35 回セミナーでは、従来からの社長講演、招待講演、自由討論会等に加え、産学連携を志向したポスターセッションを新たに実施して、若手創薬研究者がグローバルな視野で最先端創薬を考える場を提供し、盛況裡に終了しました。

###### ・第 35 回創薬セミナー

日 時： 2019 年 7 月 10 日（水）～12 日（金）

場 所：Royal Hotel 八ヶ岳

## 5) 学術研究・教育活動の奨励・表彰

### (1) 研究奨励

日本薬学会では、博士の学位を有する多様な薬剤師あるいは薬学研究者の輩出により、薬学のさらなる発展に資することを目的として、日本薬学会学生会員が学位取得を目指して研究に専念するための奨励支援を行うべく、2015年度より採用者へ奨励金貸与を開始しました。2016年度より設置した長井記念薬学研究奨励特別委員会では、運用手続きの整備を行いました。当年度採用者を加え、貸与を継続し、また、選考委員会による選考結果を受け、2020年度採用内定者を決定しました。

### (2) 授賞

薬学研究の奨励・表彰は、日本薬学会の目的である薬学の進歩・普及にとって重要な事業です。授賞規定に基づいて選考された公正な選考結果を受け、2020年度学会賞受賞者を決定しました。

①	薬学会賞	4件
②	学術貢献賞	2件
③	学術振興賞	1件
④	奨励賞	8件
⑤	創薬科学賞	2件
⑥	教育賞	0件
⑦	功労賞	1件
⑧	佐藤記念国内賞	1件

### (3) 他機関関係賞等への推薦

各財団・機関から本学会への関係賞等の推薦依頼に対し、会員から候補者を選考し、推薦しました。さらに、国（省庁）による表彰について会員から候補者を推薦しました。

## 6) 薬学教育基盤の整備

薬学教育に関する諸課題について、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、日本医療薬学会、薬学教育協議会、全国薬科大学長・薬学部長会議ならびに日本学術会議薬学教育分科会等と連携し、取り組みを推進してまいりました。

### (1) ワークショップの開催

本年度は次のとおりワークショップを開催しました。

- ・第9回全国学生ワークショップ  
日 時： 2019年8月10日（土）～11日（日）  
会 場： クロス・ウェーブ府中  
テーマ： 「医療そして社会への貢献 ～私たちが未来を創ろう～」  
実行委員長： 高橋 寛（岩手医科大学薬学部）
- ・第5回若手教育者のためのアドバンストワークショップ  
日 時： 2019年9月21日（土）～23日（月）  
会 場： クロス・ウェーブ梅田

テーマ：「新しい薬学教育と質保証 ～日々の教育改善につなげるために～」

実行委員長： 田村 豊（福山大学薬学部）

## （2）第三者確認作業

社会に資する生涯研鑽支援活動の一環として、健康サポート薬局に係る研修プログラムを確認するための第三者機関として、平成 28 年に厚生労働省から指名を受けています。今年度は前年度までに適合とした 6 機関からの更新申請を受けて確認作業を行い、6 機関に適合通知を発行いたしました。

## 3 学会情報の配信

日本薬学会の大きな役割の一つとして、信頼できる科学情報を社会に発信していくことが挙げられます。薬学の学術教育研究、医療における薬学の貢献、さらには薬学分野の行政・産業等の最新の動向を、会員間のみならず広く社会と共有し、医療健康福祉社会の発展に寄与するために、適切な手段や機会、あるいは媒体を準備・提供し、会員間の情報交換および会員と非会員・社会一般との接点を拡大し、情報の交流を促進しました。

### （1）社会への発信

今年度、該当する事案はございませんでした。

### （2）会誌の発行

会誌「ファルマシア」は、会員の広報誌として内外の情報を分かり易く提供し、また会員相互のコミュニケーションの円滑化をはかることを基本として編纂しております。学会広報および情報誌として一層の充実をはかるべく、特集号（6 回）とミニ特集号（3 回）の企画を含め、年間 12 号の発行を実施しました。J-STAGE 掲載の周知や最新情報の発信に向け、HP の迅速な更新に努めました。

第 55 巻 発行部数 約 17,000 部（月刊）

### （3）ホームページの更新

対外的にも興味を持っていただける情報発信を強く意識しつつ、一方で薬学に関係する若い世代へエールを送り、薬そのものや学会の活動に関心を高めていただけるよう、学会の最新情報の掲載ならびに会員へ向けての情報公開に努めました。

また、前年度に引き続いてホームページの一部を更新し、よりわかりやすい構成を目指しました。

### （4）メールマガジンの配信

メールマガジン「ファームナビ」を通じて、配信を希望する Pharm パスポート登録者に「日本薬学会理事会だより」として日本薬学会の動向やメッセージをタイムリーに配信し、広く学会情報の共有化をはかりました。また、会員への一斉連絡用のツールとしても活用しました。

配信 5 回 配信数 17,900 名（平均）

また、1 月から新たに学術誌編集委員会と連携し、英文ニュースレターでの広報活動を開始しました。

## (5) 刊行

薬学普及啓発誌の「高校生のための薬学への招待」と「これから薬学をはじめるあなたに」の利用は、年間 40,000 部に達しています。高校生の進路指導資料として、あるいは薬科大・薬学部 1 年生のガイダンス資料として活用されることで、薬学ならびに薬学部への正しい理解と知識を深めることに寄与しています。現在 2 誌同時の全面改訂作業を進めており、2020 年 7 月に刊行を予定しています。

また、学生の入会を促進する目的で、薬学会の入会案内リーフレットを刷新しました。今後新入生に向けた配布経路等を検討し、積極的な活用を目指します。

## 4 他機関との交流協力とグローバル化の推進

### 1) 他機関との交流協力

他機関との交流と協力をはかり、広く社会に貢献するよう努めました。

#### ① 日本学術会議との連携

薬学の存在感を高めながら、我が国の科学技術の推進に寄与するため、科学者コミュニティを代表する機関である日本学術会議薬学委員会との連携・協力を保ち、共同主催にて以下のシンポジウムを開催しました。

- ・「薬剤師が担う日本の医療と薬学教育」

日 時：2019 年 8 月 3 日（土）

場 所：日本薬学会長井記念ホール

共同主催：日本学術会議薬学委員会薬剤師職能とキャリアパス分科会

- ・「ゲノムビッグデータ解析の新潮流」

日 時：2020 年 1 月 17 日（金）

場 所：日本学術会議講堂

共同主催：日本学術会議 薬学委員会 生物系薬学分科会

#### ② 共催・協賛・講演

本学会と密接な関連をもつ団体の講演会、学術集会を共催、協賛あるいは後援（別紙 3）（開催：国内 174 件、国際 14 件）し、積極的に支援してまいりました。

#### ③ 日本化学連合への参画

#### ④ 日本学術振興会への参画

卓越研究成果公開事業におけるデータベース改修ならびにデータ掲載に向け協働いたしました。

#### ⑤ 日本薬学会新年交歓会

2019 年度新年交歓会を以下日程で開催致しました。

日 時：2020 年 1 月 14 日（火）

場 所：日本薬学会長井記念館

日本薬学会高倉会頭の挨拶に続き、ご来賓の日本薬剤師会会長、日本病院薬剤師会専務理事、文部科学省、厚生労働省の代表者の挨拶を賜り、その後、多くの薬学関係者で情報交換を行いました。

### 2) グローバル化の推進

諸外国の薬学関係団体ないし薬学関係者との交流を行い、これにより本会の国際的地位向上および薬学の国際的振興に寄与しました。

### ① 国際薬学連合 (FIP) に関する活動

- ・第 139 年会 (千葉) にて「FIP フォーラム」を開催しました (3 月 21 日)。
- ・FIP 年会 (9 月 22～26 日、アブダビ) へ代表者 6 名を派遣しました。同年会期間中、FIP に加盟する日本の 4 団体 (本会を含む) が合同で「Japanese Reception」を開催しました。
- ・BPS Meeting (科学部門会合。9 月 24 日、アブダビ) に代表者 3 名が出席しました。

### ② 交流協定に基づく交流

- ・ドイツ薬学会 (DPhG) 「Frontiers in Medicinal Chemistry」 (ヴュルツブルク) へ本会代表者 1 名を派遣し、講演が開催されました (3 月 25 日)。また、同会 2019 年会 (ハイデルベルク) へ本会代表者 2 名を派遣し、講演が開催されました (9 月 2、3 日)。
- ・韓国薬学会 (PSK) 第 139 年会 (千葉) へ同会代表者 1 名および講師 2 名を招待し、同会との合同シンポジウムを開催しました (3 月 23 日)。

### ③ その他

- ・主催者からの要請に応じ、「DUPHAT 2019」 (Dubai International Pharmaceuticals & Technologies Conference & Exhibition 2019。2 月 26～28 日、ドバイ) へ講師 1 名を派遣しました。
- ・「AIMECS (AFMC International Medicinal Chemistry Symposium) 2021」の東京での開催、また 2020～2021 年のアジア医薬化学連合 (AFMC) 事務局を本会 (医薬化学部会) が担当することが決定されました。

## 5 学会基盤の整備・確立

### 1) 会員関連

#### (1) 会員増強への取り組み

次世代へ向けて、より一層の発展を目指すためにも、会員は、学会の基盤であり財産です。多岐に亘る薬学の学術の魅力の向上を計り、会員増強へ繋げてまいりました。

#### (2) 会員登録状況

会員数 (2020 年 1 月 31 日現在)	16,657 名
正会員	16,393 名
	(一般会員 13,768 名)
	(学生会員 2,625 名)
永年会員	188 名
有功会員 (第二項)	36 名
名誉会員	40 名
賛助会員	197 機関

2019 年度末 (2020 年 1 月 31 日) 現在、正会員のうち 1,188 名が 2019 年度会費未納者でした。

#### (3) 名誉会員の推薦

定款第 5 条に基づき、理事会において名誉会員候補者 2 名の推薦を決定しました。

名誉会員 馬場 明道  
松田 彰

#### (4) 有功会員および永年会員の決定

定款第5条に基づき、理事会において永年会員29名を決定しました。永年会員には、記念品を贈呈いたしました。

永年会員	青木正忠	池上幸江	磯貝芳正	板谷泰助	小鴨 晃
	奥山治美	勝部純基	加藤隆一	仮家公夫	河原畑二郎
	菊川靖雄	草野源次郎	久保陽徳	厚東伸侖	小西良士
	小林 榮	篠田純男	菅谷愛子	谷 佳都	永井慎一
	中谷常男	西川隆也	西庄重次郎	吹野秀亀	松本かつ代
	森 昌斗	森 洋樹	吉田隆志	吉田善一	

## 2) 財政基盤の確立

### (1) 賃貸収入と会館の運営

学会運営は、会費と学術事業収入等の経常収入によって賄われるべきものですが、本会では会館の賃貸収入をもって学会運営の財務基盤を補完しております。賃貸事業は社会情勢の影響を多分に受けることから、常に状況把握を行い、管理代理者であるエム・ユー・トラスト不動産管理株式会社と連携を密にし、運営基盤の安定化に資するよう努力してまいりました。

学会が管理する会館施設の運営は、会員の利用施設としての有効活用と、一般社会への開かれた学会としてのイメージアップのため、委託先のビル管理会社と協力して利用者の便に供するよう努めました。最近では、地下2階の喫煙所の撤去、地下2階ホールのWi-Fi環境の改善、1階貸し会議室の内装更新等を行いました。

### (2) 長井記念館の維持管理

当館の経年劣化に伴う修繕計画について、エム・ユー・トラスト不動産管理株式会社を始めとする関係各社からの情報を基に、主体的に把握するよう努めてきました。現長井記念館は竣工から約30年が経過し、今後、修繕の一層の増加が見込まれます。大規模修繕の一環としての空調改修工事は2019年3月に無事終了いたしました。

### (3) 壽稻荷ご祭礼

日本薬学会の敷地の中に祀られている壽稻荷(ことぶきいなり)本殿に対し、毎年二(に)の午(うま)の日に日本薬学会主催でご祭礼を行っております。日本薬学会に旧長井邸の敷地(現日本薬学会 長井記念館)および新館の建設に対するご寄附をいただきました、長井長義先生のご親族をはじめ、多くの薬学関係者や近接町会員等を招いて、金王八幡宮の神職による神事を今年度は以下日程で執り行いました。

日 時：2019年2月6日(水)

場 所：日本薬学会長井記念館



・ \* ・ 2019 年度役員一覧 ・ \* ・

会 頭	高倉 喜信 (京大院薬)	
副 会 頭	堅田 利明 (武蔵野大薬)	高山 廣光 (千葉大院薬)
	中山 和久 (京大院薬)	
常任理事	吉松賢太郎 (日本薬学会)	
総務担当理事	奥田 晴宏 (国立衛研)	金田 典雄 (名城大薬)
	北川 裕之 (神戸薬大)	武田真莉子 (神戸学院大薬)
財務担当理事	石井伊都子 (千葉大病院薬)	横島 聡 (名古屋大院創薬)
広報担当理事	望月 眞弓 (慶應大薬)	鍛冶 利幸 (東京理大薬)
国際交流担当理事	鈴木 洋史 (東大院薬)	井ノ口仁一 (東北医薬大薬)
	野村 泉 (武田薬品工業)	
編集担当理事	大戸 茂弘 (九大院薬)	辻 勉 (城西大薬)
学術事業担当理事	鈴木 利治 (北大院薬)	松岡 一郎 (松山大薬)
	松崎 勝巳 (京大院薬)	藤原 秀豪 (日本新薬)
	細谷 健一 (富山大院薬)	
顧 問	奥 直人 (帝京大薬)	
監 事	高柳 輝夫 (ヒューマンサイエンス財団)	
	春田 純一 (阪大院薬)	

・ \* ・ 2019 年度委員会・支部・部会一覧 ・ \* ・

**常置委員会**

役員候補者選考委員会	奥田 晴宏 (国立衛研)
学会賞選考委員会	船津 高志 (東大院薬)
創薬科学賞選考委員会	佐々木茂貴 (九大院薬)
教育賞選考委員会	佐藤 美洋 (北大院薬)
佐藤記念国内賞選考委員会	増田 智先 (国際医福大薬)
創薬セミナー委員会	大高 章 (徳島大院医歯薬)
広報委員会	佐藤 康夫 (横浜薬大)
ファルマシア委員会	太田 茂 (和歌山県医大)
学術誌編集委員会	細谷 健一 (富山大院薬)
薬学雑誌	賀川 義之 (静岡県大薬)
CPB	中島 誠 (熊本大院生命科学)
BPB	大槻 純男 (熊本大院生命科学)
総務委員会	高山 廣光 (千葉大院薬)
人事委員会	高倉 喜信 (京大院薬)
財務委員会	高山 廣光 (千葉大院薬)
国際交流委員会	堅田 利明 (武蔵野大薬)
年会問題検討委員会	高倉 喜信 (京大院薬)
薬学教育委員会	平井みどり (兵庫県赤十字血液セ)
男女共同参画委員会	高山 廣光 (千葉大院薬)

**特別委員会**

長井記念薬学研究奨励特別委員会	佐治木弘尚 (岐阜薬大)
-----------------	--------------

## 支部

北海道支部

東北支部

関東支部

東海支部

北陸支部

関西支部

中国四国支部

九州支部

青木 隆 (北医療大薬)

大橋 綾子 (岩手医大薬)

北嶋 浩 (田辺三菱製薬)

眞鍋 敬 (静岡県大薬)

水口 峰之 (富山大院薬)

竹本 佳司 (京大院薬)

高野 幹久 (広島大院医歯薬保)

田中 隆 (長崎大院医歯薬)

## 部会

化学系薬学部会

医薬化学部会

生薬天然物部会

物理系薬学部会

構造活性相関部会

生物系薬学部会

薬理系薬学部会

環境・衛生部会

医療薬科学部会

レギュラトリーサイエンス部会

竹本 佳司 (京大院薬)

巾下 広 (小野薬品工業)

小林 義典 (北里大薬)

飯田 靖彦 (鈴鹿医療大薬)

大田 雅照 (理化研)

杉本 幸彦 (熊本大院薬)

橋本 均 (阪大院薬)

佐藤 雅彦 (愛知学院大薬)

大谷 壽一 (慶応大薬)

矢守 隆夫 (医薬品医療機器総合機構)

## 事務局

事務局長

奈良 洋